

講義名	流通政策			授業形態	
担当教員	長坂 泰之			開講期・曜日・時間	後期 火曜日 1 時限
	単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード

主題と概要

1. 授業内容の全体像
日本の流通・商業政策を中心とした流通・商業の現場で起きている事象について学ぶ授業です。理論中心ではなく、実際の生の現場の事例を中心に、流通・商業の実態を学びます。
 2. 当該科目の意義
流通・商業は実政策と密接に関連しています。もし自分で販売をするということになった場合でも流通・商業政策を理解しているかしていないかで販売の成否に大きな差が出ることもあります。
 3. 関連する問題の状況や課題の背景
特に地方では流通・商業も含め経済状況は非常に厳しく、「地方創生」がキーワードになっています。流通・商業面から見た地方創生について、みなさんと一緒に考えていきます。
 4. 仕事として生き残るか
厳しい現場で生き残っている地域・商業は、それぞれ理由があります。その理由を知ること、地域の経営、商業の経営について学ぶことができます。
- なお、所要の感染予防措置を講じた上で、原則としてすべての授業を対面授業で実施します。新型コロナウイルス感染症の状況により変更がある場合には、別途連絡します。

到達目標

1. 知識について
この授業を履修すると、日本の流通・商業の移り変わりや政策と関わりがあることがわかります。次に、日本と海外とのまちづくりの違いがわかります。そして、商店街が元気の無い理由がわかります。さらに、日本各地の時代の変化に対応した取り組みがわかります。最後に、まちに関わる様々な人の考え方がわかります。
2. 興味・関心・態度について
この授業を履修すると、商店街や大型ショッピングセンターの看法が変わります。次に、自分の生まれた地域や住んでいる地域の商業の看法が変わります。そして、地域資源、地域の魅力について興味を持つようになります。さらに、地域における人の重要性について理解できます。最後に、自分たちの価値・役割について考えるようになります。
3. 能力について
この授業を通じて、これからの地域商業の活性化に大切な視点や身につきます。そして、自分で販売をするときの心構えが身につきます。最後に、起業家精神が身につきます。

提出課題

1. 毎回のレポート
レスポンスを使用して、毎回の授業で当該授業の理解度チェックを兼ねたレポートが出ます。
また、授業中にResponなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。
2. 中間まとめテスト（レポート方式）を行います。
3. 期末まとめテスト（レポート方式）を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

必要に応じて、講義連絡、次回以降の講義、メール等により講評、解説を行います。

評価の基準

1. 毎回のレポート及び授業への参加意欲等 60%（毎回のレポートは最低9回以上の提出を必須）
レポートのRespon以外に授業中にResponなどを使用して、教室内の意見を集約・発表する内容、参加意欲などを評価します。
2. 中間まとめテスト（レポート方式）15%
3. 期末まとめテスト（レポート方式）25%（必須）

毎回のレポートで、定性的な記述において、全く同様の内容、類似した内容、ネット等からのコピペについては、関係した全ての学生のレポート評価を0評価とします。

履修にあたっての注意・助言他

1. 講義連絡について
基本的にLMSが一つの「講義連絡」を通じて、講義の連絡、テキストの配布及びレポートの内容・期限等を通知します。対面の履修生には講義資料を配布します。
2. レポートなどの期限について
レポート、レスポンスの提出期限は厳守です。また、レスポンス番号の間違い等による提出ミスは「未提出」扱いになるので十分気をつけてください。
3. 教科書の購入
基本的に講義は教科書に添って進むので、必ず教科書を購入してください。

教科書

『中心市街地活性化のツボ』	長坂泰之	学芸出版社	2000	9784761525101
---------------	------	-------	------	---------------

参考図書

『100円商店街、バル、まちゼミ』	長坂泰之編著	学芸出版社	2200	9784761525422
-------------------	--------	-------	------	---------------

その他

- 参考書として、
 商業まちづくり政策。（渡辺達朗著、2014年、有斐閣）
 『シリーズ流通体系 地域商業の競争構造』（加藤司、石原武政編著、2009年、中央経済社）
 『100円商店街、バル、まちゼミ』（長坂泰之編著、2012年、学芸出版社）
 『失敗に学ぶ中心市街地活性化』（編著者は、久増弘弘、長坂泰之著、2008年、学芸出版社）
 『復興 陸前高田 -ゼロからのまちづくり-』（中井棟裕、長坂泰之他編著、2023年、鹿島出版会）

授業計画

- 第 1 回 イントロダクション。この講義が目指すところ
日本の商業の衰退の現状（熊本の場合とまちなか）
- 第 2 回 我が国中心市街地衰退の要因・熊本を取り組み
- 第 3 回 我が国の流通商業の変遷 政策は20世紀初頭からの約100年間で目まぐるしく変化
- 第 4 回 我が国の流通商業の変遷 振興施策と調整施策
- 第 5 回 東日本大震災被災地の商業復旧・復興策
- 第 6 回 あるまちの中心市街地活性化の取り組み（中間まとめテスト）
以下、中心市街地活性化のツボ →現場目線から流通政策に触れるー
- 第 7 回 「リーダーシップとタウンマネジメント」
- 第 8 回 「明確な方向性と戦略」
- 第 9 回 「地域の強みを徹底的に磨く」
- 第 10 回 「まちのファンを育てる/まちの役者を育てる」
まちと商店の魅力（バル・まちゼミ）
- 第 11 回 つながる/連携する/回避する
- 第 12 回 「イメージアップと情報発信を意識する」
- 第 13 回 「不動産所有を前提としない、所有と使用の分離」
- 第 14 回 総括「私たちは流通政策から何を学んだのか」（期末まとめテスト）
- 第 15 回

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A: PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> E: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> C: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> G: グループワーク
<input type="radio"/> O: プレゼンテーション	<input type="radio"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> F: その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 予習
教科書「中心市街地活性化のツボ」は講義の前にご覧いただく。また、意味が不明な用語については予めその意味を調べておこう。その他、講義に関連することで、事前に調べておく必要があると思われる事項について予め調べておこう（1時間程度）
2. 復習
授業で重要と思われたところを中心に、資料と参考文献等を読み直し理解を深め、レポートを作成しよう（1時間程度）
3. 中間及び期末のまとめレポート作成に向けて必要な学習を行おう（1時間程度）
4. 授業での学びから、将来に向けて必要と思われる知識の習得や、必要に応じて現場で活動をしてみよう（1時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 流通業界及び関連業界の政策及び動向、問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、小売業界、流通に関する問題探索、課題提議ができる。
2. 社会システムとしての流通の動態や仕組み、役割を理解し、これからの流通の姿を構想することができる。
3. 小売業や商業集積の社会的意義や日本経済における重要性について深い関心や理解をもち、それをもとに社会で活躍することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

社会は正解はひとつではありません。自由な発想で考え、発言する機会があれば積極的に発言してください。
 Responなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
 教科書『中心市街地活性化のツボ』に掲載されている20以上の事例は自ら実務として関わった事例もしくは現地でピアリングをもとにその成功要因などを分析したものです。
 国の政策実施機関である独立行政法人中小企業基盤整備機構に30年以上在籍。中小企業の融合化、人材育成（中小企業診断士養成、中小企業経営後継者育成等）、インキュベーション運営、流通団地、工業団地、中心市街地、商店街、共同店舗、中小小売業の経営診断の経験あり。流通の現場の実態を伝えます。経済産業省登録中小企業診断士、内閣府地域活性化伝道師。

備考

1. 授業を重視
最初に、なぜ商店街が寂れたのかなど我が国の流通・商業の時代の流れを画像なども用いて理解します。また、海外の取り組みについても画像などをいって学びます。そのうえで、全国各地の活発な事例を画像などを通じて学び、これからの地域商業の方向性について、共に考えていきます。
2. 事例などから見られる成功の要因を探す
レジュメ及び参考テキストの事例などから、事例などに隠れる成功の要因を探します。理解を深めるために「授業で参考になったこと」を提出してもらいます（必須）。